

経営発達支援事業の事業評価及び見直しシート

未実施または低評価 1～高評価 4 で評価

評価項目	事業目標	事業成果	自己評価と説明	委員評価 (平均値)	次年度見直しと今後の方向性
1. 地域の経済動向調査に 関すること 【指針③】	月例レポート作成 12 件 年間レポート作成 1 件 レポート活用 1,000 件	月例レポート作成 0 件 年間レポート作成 1 件 レポート活用 2,286 件	3 2 月 1 日付の当会会員に景 気動向調査書を配付。集計結 果を 7 月の当会会報誌に掲 載。その後の経営支援に活用 した。	B (3.0)	月例レポートについては調査システムが確立してい る埼玉県庁、国の本省や地方局、全国商工会連合会、 埼玉県商工会連合会等が発表する景気動向調査、県内 の金融機関が発行する経済レポートの情報を提供す ることで代替えとした。新型コロナウイルスによる影 響調査について段階をふんだアンケートを実施し動 向を注視する。
2. 経営状況の分析に関する こと 【指針①】	業界対比レポート作成 30 件	業界対比レポート作成 1 件 【個社支援用】	2 希望事業者について 1 件実 施した。 記帳機械化事業所について 簡易財務分析【全国平均】と の対比評価をした。	C (2.0)	希望者実施すべく対象事業所の掘り起しをする。持続 化補助金や経営革新計画のフォローアップの支援に 活用したい。個別企業の経営分析レポートは記帳機械 化事業所を対象に簡易財務診断を実施し、業界の全国 平均との対比ができるようになったので継続してい く。
3. 事業計画策定支援に関する こと 【指針②】	経営計画作成講習会開催 2 回 創業塾開催 2 回 経営革新塾開催 1 回 事業継承セミナー 1 回	経営計画作成講習会開催 0 回 創業塾開催 1 回 経営革新塾開催 1 回 事業継承セミナー 1 回	3 経営計画作成講習会は未実 施だが内容がほぼ同じであ る経営革新塾を実施。創業塾 と事業継承セミナーを実施 した。	B (3.0)	創業塾は参加者も多く好評であり創業者 1 名輩出し たので本年も開催予定。事業継承セミナーは昨年、参 加者が少なく個別相談で対応する。経営革新塾は今年 度も武蔵野銀行新座支店と連携を模索中である。
4. 事業計画策定後の 実施支援に関する こと 【指針②】	計画作成者支援 60 件 支援後の創業者 7 人 経営革新承認 12 件 支援後の事業継承 3 人	計画作成者支援 52 件 支援後の創業者 2 人 経営革新計画承認 16 件 支援後の事業継承 0 件	3 経営革新承認以外は目標に 達しなかった。経営革新承認 について県庁より高い評価 を受けた。	B (2.8)	計画作成者数・支援後の創業者数・事業継承者数が未 達成であり目標に達成するための努力を継続する。経 営革新計画承認は目標達成したが、本年も埼玉県の経 営革新計画承認目標件数 1,000 件以上に資するよう特 に重要な業務として取り組む予定。
5. 需要動向調査に関する こと 【指針③】	需要動向レポート作成 2 件	需要動向レポート作成 0 件	1 未実施。	D (1.0)	需要動向レポートは消費者との接点が少ない商工会 にとって難しい事業である。埼玉県商工会連合会から の情報提供などを参考に小規模事業者からの消費者 動向の聞き取りをするなど調査方法・分析を研究す る。

経営発達支援事業の事業評価及び見直しシート

未実施または低評価 1～高評価 4 で評価

評価項目	事業目標	事業成果	自己評価と説明	委員評価	次年度見直しと今後の方向性
6. 新たな需要の開拓に 寄与する事業に関する事 【指針④】	IT 活用需要開拓セミナー開催 2 回 県南 4 市商談会 参加者 10 社 彩の国ビジネスマン参加者 8 社	IT 活用需要開拓セミナー開催 2 回 県南 4 市商談会は未開催 彩の国ビジネスマン参加者数 3 社	2 IT 活用需要開拓セミナーとしてサイバーリスク対策セミナー等を開催。県南 4 市商談会未開催。大阪商工会議所のビジネスマンを代替えた。彩の国ビジネスマンの参加者は未達成であった。	C (2.1)	IT 活用需要開拓セミナー開催については小規模事業者の要望を見極めて開催を研究し、小規模事業者において喫緊の課題に対応したセミナーを模索する。大阪商工会議所のビジネスマンを当面は活用も並行して実施。県南 4 市商談会は経年開催により参加者減少、当面の開催は難しい。彩の国ビジネスマン参加者への助成金を通じて継続支援する。
7. 地域経済活性化に資する取組	産業フェスティバル出店数 50 件 " 来場者数 79,000 人 新座発見ウォーキング参加者数 650 人	産業フェスティバルは台風の接近のため中止。 新座発見ウォーキング参加者数 647 人	2 産業フェスティバルは中止のため評価は出来ない。 ウォーキングは目標にもう一步だった。	C (2.1)	地域経済振興を図るために二つの事業を開催する。特に昨年中止だった産業フェスティバルの本年度は会場を一新し販路開拓に役立つことを改めてアピールしたい。新座発見ウォーキングも関連団体との連携などブラッシュアップを図りつつ地域経済の活性化につなげていく。
8 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組	他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事。 経営指導員等の資質向上等に関する事。	金融機関との連携（金融懇談会・実務研修会各 1 回開催） 南西部地域振興センター管内小規模事業者経営強化事業での経営指導員間の情報交換会議の 9 回開催。 内部スキルアップ研修会 1 回開催。 埼玉県商工会連合会職員研修会は対象職員全員が規程時間通り受講した。 中小企業大学校研修の受講はできなかった。	3 ほぼ目標は達成したが、職員間の情報交換や情報収集など協力や連携をし、さらに小規模事業者への支援のスキルアップする必要がある。	B (3.0)	今年度も既存事業を実施し他団体主催の会議研修会は積極的に参加し職員の研鑽に努める。特に今年度は南西部地域振興センター管内小規模事業者経営強化事業の幹事商工会として傘下の経営指導員の情報交換や連携により力を入れて取り組む予定。内部スキルアップ研修会も職員の融資知識の向上のため開催予定。埼玉県商工会連合会職員研修会は対象職員全員が規程時間通り受講する予定である。 今年度の中小企業大学校研修は受講なし。

委員の方から頂いた評価の平均値を出して A～D の評価とします。

A → 3.5～4 高評価

B → 2.5～3.4

C → 1.5～2.4

D → 1～1.4 未実施または低評価